令和６年度　倉敷中央看護専門学校　自己点検・自己評価結果

1. 目的

本校の看護教育の充実に向けて、自己点検・自己評価を行い、学校運営・教育活動の改善・維持・発展の活動を推進する。

2. 評価の視点

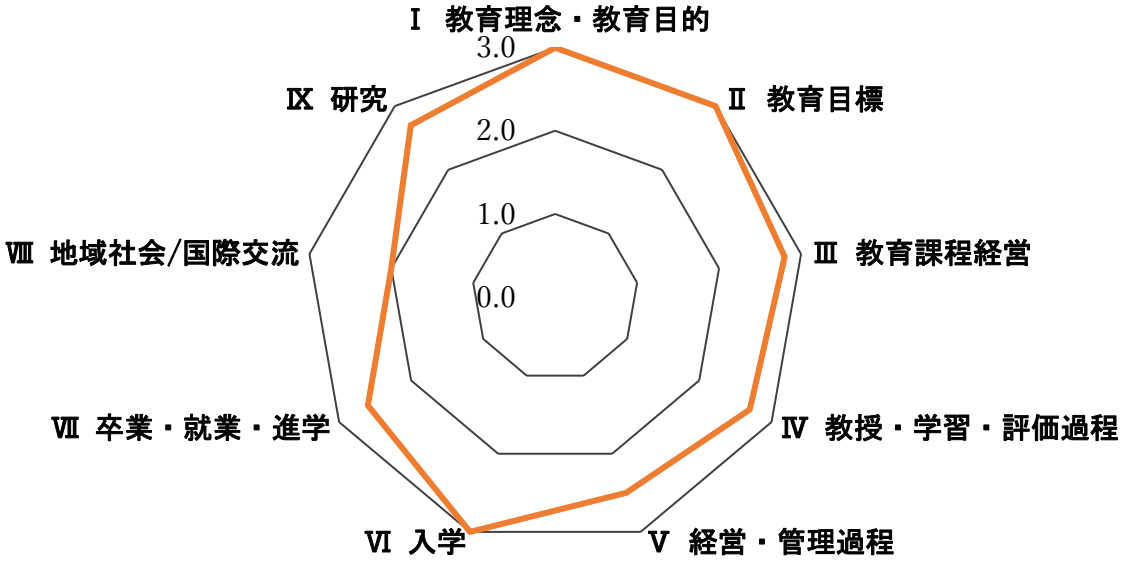
厚生労働省「看護師等養成所の教育活動等に関する自己評価指針」を参照し、「評価」は９カテゴリー、「点検」は 67 項目、125 の視点から評価している。

［９カテゴリー］

Ⅰ 教育理念・教育目的
Ⅱ 教育目標
Ⅲ 教育課程経営
Ⅳ 教授・学習・評価過程
Ⅴ 経営・管理過程
Ⅵ 入学
Ⅶ 卒業・就業・進学
Ⅷ 地域社会/国際交流
Ⅸ 研究

3. 令和６年度　倉敷中央看護専門学校　自己点検・自己評価結果

評価基準　３（当てはまる）
　　２（やや当てはまる）
　　１（当てはまらない）



カテゴリー	令和5年	令和6年	概要
Ⅰ 教育理念・教育目的	3.0	3.0	公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院の基本理念である「患者本位の医療・全人医療・高度先進医療」を基盤とし、「懇切なる看護」を実践できる看護師の育成を責務としている。生命の尊厳・人間愛を基盤とした豊かな人間性を養うとともに、人々の健康を守り、健やかな生活を支えるために、社会における健康のニーズの多様化に応じ、看護が主体的に実践できる看護師を育成している。 2022年度から新カリキュラムが開始となり、教育目的・教育目標・ディプロマポリシー（DP）・カリキュラムポリシー（CP）・アドミッションポリシー（AP）を策定し運用している。学年目標を定め年度初めにガイダンスを行い、年度末に自己評価を行うことで学生にとって学習の指針になっている。
Ⅱ 教育目標	3.0	3.0	
Ⅲ 教育課程経営	2.8	2.8	新カリキュラム運用は3年目を迎えた。改正のポイントである地域・在宅看護論では、低学年から地域でのフィールドワークの実施や新たな実習施設（倉敷中央病院リバーサイド・地域包括支援センター・在宅介護支援センター）で、退院支援や地域連携等を学べる機会となっている。 また、設置主体の強みを活かした「芸術と文化」「人間と社会」の科目では、様々な価値観に触れる機会となっている。しかし、カリキュラムは過密傾向となっており、特に3年次は臨地実習以外の期間が少なく、実習の振り返りや次の実習の準備等が効果的に行えない状況があった。専門職として必要な学習力を実習中から身に付け、根拠を持った看護実践を行うための基礎的能力を更に育成していく必要がある。学校行事やボランティア活動などに主体的に参加する機会の乏しさから、協働する能力等、社会人基礎力の課題がある。学生が看護に興味・関心を持ち主体的に学べるカリキュラム開発が課題となっている。臨地実習については学生・保護者から実習指導のあり方に関する意見があった。看護実践の学習を支援できるよう、臨床と教員との連携を強化する必要がある。また教職員は学生支援や業務に追われる現状があり、自己研鑽できる環境づくりが必要である。
Ⅳ 教授･学習･評価過程	2.7	2.7	解剖生理学を看護活動に活かせる授業の配列や内容の工夫を行っている。また、２年次の各領域別「看護実践演習」では、対象や状況に応じた看護を思考するためにアクティブラーニング等の学習方法を活用しており、スムーズに臨地実習へ移行できている。しかし、思考・体験型の学習方法が増加した影響によりレポート課題が多く、学生の負担感が増大している。この事は学生が課題発見・興味を高めるよりも課題提出が目的となり、本来の科目のねらいに対して達成感を持ちにくい状況にも繋がっていると言える。臨地実習では他者の評価に影響を受けやすく、自ら看護実践能力を評価できるよう、教育や評価のあり方の検討が必要である。看護技術教育については、卒業生全員が 71 項目すべてにおいて実習または演習で卒業時到達度に到達していた。

Ⅴ 経営・管理過程	2.5	2.5	自己点検・自己評価・関係者評価を定期的に実施し学校経営に活かしている。情報公開については、インスタグラムの情報発信は定着しているが、 ホームページでの情報発信には運用上の課題もある。「ハラスメント防止に関するガイドライン」を策定し、学生支援体制を整えた。学生からの意見は0件であった。令和7年度施行に向けて「障害のある学生の支援に関するガイドライン」を策定した。また、学生支援については担任だけでなくゼミナール担当者等、相談しやすい環境を整えている。定期的なアンケートや面談を行い、学生の状況を早期に把握し問題解決に繋げている。Teams 等の ICT 活用によって学生や教職員間での情報共有がスムーズになっているが、業務改善や時間管理としての改善には至っていないため、さらに DX を推進していく必要がある。令和6年度は気象状況の変化によってカリキュラム運営への影響が見られた。安全で確実な学習の保障ができるよう体制を整える必要がある。
Ⅵ 入学	2.5	3.0	前年度の入学試験の状況を評価し、入学試験方法を変更した結果、受験者は27%増加となり、定員が確保できた。オープンスクールでの看護師の講話や1日看護体験は、看護師の仕事を身近に感じられる体験となっていた。また、進路ガイダンスへの参加・高校訪問等を積極的に行った。広報・募集活動では、本校の強みといきいきと学んでいる在校生の様子が伝わる情報発信、社会人・低学年への PR 活動の強化が課題である。
Ⅶ 卒業・就業・進学	2.5	2.6	43名の卒業生を輩出し、全員の進学・就職が決定した。法人内への就職率は83.7%と例年と比較し、低い状況であった。また就職試験の時期が早まっているため、低学年より自らのキャリアが描けるように就職ガイダンス・法人内看護師との交流・講話を行った。卒業生の支援として、ホームカミングデーを実施した。国家試験については、1 年次より自覚をもって学習に取り組めるように、国家試験ガイダンス等対策を強化した。第114回看護師国家試験は全員合格であった。
Ⅷ 地域社会/国際交流	1.9	2.0	オープンホスピタルや病院災害訓練・小児科クリスマス会など法人内のボランティアに参加し、交流・地域貢献を行った。また、学校祭は、保護者や地域の方に公開して開催し、地域に開かれた学校として交流の場を広げる機会となった。国際協力の講義では、法人内の外国人技能実習生との異文化交流を行った。
Ⅸ 研究	2.7	2.7	教員が研究活動を行う上で法人内の研究委員が支援する体制は整っているが、教員の時間の確保ができていない。研究活動が行える体制づくりには課題がある。現在、カリキュラム評価につながるよう、看護学生のアセスメント能力に関する研究を行っている。

4. 学校関係者評価委員会（2025年3月27日）開催

1）学校関係者評価委員

中野　宏子 様：非常勤講師（担当科目：健康行動論）

水川　奈美 様：倉敷中央病院リバーサイド 副看護部長（担当科目：地域の人々の健康な暮らしと支援）

高村　洋子 様：倉敷中央病院 副院長 兼 看護本部看護本部長

小野　直美 様：倉敷中央病院 看護本部看護副本部長

原田　美雪 様：倉敷中央病院 1棟9階西緩和ケア病棟看護師長・緩和ケア認定看護師（担当科目：緩和ケア）

井口　紗菜 様：卒業生

杉本明日海 様：卒業生

2）委員会での意見交換と共有内容

・学生募集の難しさがある中、工夫しながら活動していることがわかる。Instagram 投稿では、在校生の参画による投稿や卒業生の活躍状況、学校の雰囲気が魅力的である点などを発信していくと更に良い。

・卒業生が働いている様子や卒後のキャリアアップについては、在校生も含めて知りたい情報であるため、発信していくと良い。

・授業中に学生の反応や発言が少ないことがあるが、かかわりによって学生からの質問や反応は増えてくると感じている。学生が感じていることを把握しながら、学生自身が発信できるよう教育していく必要がある。

・学生個々の能力を引き出すような教育が大切であり、その実現にはゆとりを持って教育ができるよう検討を進めていくと良い。

・学生から実習に関する意見が出ていたが、出来事を早期に把握して問題点ばかりでなく良い場面なども含めて実習先のスタッフ・指導者とコミュニケーションをとりながら実習指導を行うと良い。

・学生は「成長する人」としてかかわっていくことが大切であり、学生・看護師共に自律性や社会人基礎力を高めていく必要がある。

・学生の個別支援に時間を要している状況があり、教職員の業務改善が図れると良い。

以上